

令和6年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	理数科キャリアデザインツアー	
期 日	令和6年10月2日（水）～4日（金）	
会 場	東京方面	
対 象	理数科 2年生	
目 的	<p>(1)身近なものから最先端まで幅広い科学に触れ、興味・関心を持つことにより、科学の様々な分野に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>(2)興味を持った分野について探究活動を行い、その活動の中で生じた疑問点を、自分で解決していこうと努力する過程で、自ら学ぶ姿勢を身に付ける。</p> <p>(3)研究者、卒業生との交流をとおして、自己を客観的に見つめ、これまでの生き方を振り返るとともに、自分自身の進路や将来設計についての意識（キャリア意識）を向上させる。</p> <p>(4)訪問先で得た知識や興味を、『課題研究』に生かすとともに、学習の高い動機づけとする。</p>	
内 容	<p>[1日目]・希望進路別研修 A班 JAXA つくば宇宙センター B班 東京理科大学野田キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生交流会 <p>[2日目]・東京大学名誉教授 浅島 誠 様による特別講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班別企業訪問研修 <p>[3日目]・国立科学博物館見学</p>	
		
	JAXA つくば宇宙センター	東京理科大学での模擬実習
		
	浅島 誠 東京大学名誉教授による特別講義	

感想など

・3日間いろいろな施設を回り多くの人々と関わったが、その全てに共通しているのは、並々ならぬ努力と好奇心だと思う。今まで分からなかったことやはっきりしていなかったことを知るために、多くの人と協力し、様々な技術を持ち寄って問題解決に導くことができるのはとても素晴らしいことだと感じた。自分一人ではできないことがあったら、頑張っ解決しようとするのもいいが、時には友達や仲間と協力してもらうことも大切だということをしっかり覚えておきたい。

・普段体験できない学びを通して、学習や教養、知識というものは、私たちが何かを得るときの土台であり道具であるのだなと感じた。対象をもっと知ろうとする好奇心、知識を武器とするための幅広い読書、挑戦による経験、この3つを深く意識して、日々また自分を高めようと思う。

・高校生活を送っていると、どうしても目の前の大学受験、大学選びを考えてしまうが、自分の人生のスタートラインを選ぶ場面であり、そこはゴールではない。分かっているつもりだったが、今回のキャリアデザインツアーで身にしみて感じた。高校生活は自分の未来のためのスタートラインに立つ準備期間であり、助走期間。興味のあることを見つけて、幅を持たせる。どこに見学に行っても共通していたのは、協調性やコミュニケーション力について。今の時代は一つの学問の知識じゃ太刀打ちできないように、一人でできる仕事なんてほぼない。より良い仕事をするためには協力できる人間関係を築くこと。これもこの高校生の準備期間に身に付けておかなければいけないと思った。人間性の方が将来必要になってくるかもしれない。将来自分のやりたいことをするための準備期間が今だと思って、目の前のことを一つずつこなしていきたい。

・今回のキャリアデザインツアーを通して、将来に対する考え方を知ることができました。今現在将来について非常に悩んでいるのですが、浅島教授のご講演やJAXAでの体験を通して、様々なところに目を通して見て、自分の視野を広げることが一番大切だと知りました。今回の経験を活かして今後の自分の将来について改めて考えたいです。

・浅島教授の講演を聴いて、浅島教授は生物学以外にもいろいろな学問に精通しているということが分かってすごいなと思った。浅島教授の行った研究は約50年間も世界中の科学者が挑戦したが実証できなかった誘導物質の存在を明らかにするもので、周りの人にも勧められなかったのにも関わらず、諦めないうで実験を続けた浅島教授を見習いたいと感じた。学部選びの際のアドバイスでは、何を学びたいかより、何をどの視点から学びたいかが大事だとおっしゃっていて、とても参考になった。